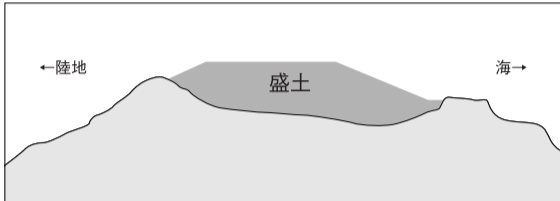




◆地震・津波対策
◎袋井市静岡モデル整備計画
かさ上げが決まった浅羽海岸の防潮堤

南海トラフ巨大地震によるレベル2の津波（10m）に対応するため、浅羽海岸防潮堤のかさ上げに着手していくことになりました。現在の防潮堤の高さは約10mですが、盛土して12mにかさ上げします。延長5.35km、全体の盛土量は約170万m³、概算事業費は22億円、15年先の完成を目指します。なお、市では「袋井ふるさと防災寄付金」の受付を始めました。目標金額は5億円、これから平成35年3月31日までの10年間、「袋井市地震・津波対策アクションプログラム2013」に位置付けられている事業の中から採択して活用を図ります。



建設が始まった中新田地区「命山」
湊東地区に続き中新田地区の命山が、今年3月の完成を目途に工事が始まりました。形状は円形で海拔10m、収容人数は約400人、事業費は約2億8千万円。今後、湊西地区、東通・大野地区での建設が予定されています。



危険水位にまで増水した原谷川
集中豪雨 各所で被害

昨年10月の台風18号による集中豪雨は、市内でも時間当たりの最大雨量63mmを記録し、人的被害はなかったものの床上浸水など各地で被害をもたらしました。この豪雨は、平成24年8月の豪雨に続く被害です。袋井市内はもともと多くの河川が集中していますが、昨今の異常気象は治水事業でも根本的な対策が求められます。

冠水した太郎兵衛新道 鷲巣、村松地区



沖之川で始まった河道拡幅工事



袋井消防署山梨分遣所が完成

昨年3月、袋井消防署山梨分遣所が上山梨に完成しました。分遣所は、袋井市北部地区、森町南部地区を管轄します。なお、老朽化した袋井消防庁舎の移転計画が上がっています。防災センターと併設して建設するもので、建設場所は袋井警察署の向かい側、平成32年度の完成を目指します。



休日急患診療室がオープン

旧袋井市民病院に開業する6施設の一つ、休日急患診療室が昨年4月に開業しました。夜間はまだ在宅輪番制ですが、利便性も向上することになりました。今年5月には、社会福祉協議会、保健センターもここに移転し、市民の保健・医療・介護を支える拠点施設「総合健康センター」としてオープンします。



昨年4月開所した放課後児童クラブ「山名コミュニティハウス」

急がれる子供・子育て支援体制

保育園や放課後児童クラブはまだ希望者の要望を満たしているとは言えません。潜在的な需要を考えながら、より利用しやすい施設を用意していく必要があります。



4月に開園する建設中の「たんばぼ第二保育園」



袋井北小「ともえサポーターズ」が文科省表彰

学校を地域で支え、一体となって子供たちを育てる活動に取り組んでいる袋井北小の「ともえサポーターズ」が昨年12月、文部科学大臣表彰を受けました。この活動は、多忙化や多様化で手が回らなくなっている学校の窮状を考え、地域が子供たちの見守りや授業支援、環境整備のお手伝いをするものです。



新総合体育館を旧パイオニア駐車場跡地に
新総合体育館の建設場所について、市内4か所の候補地があげられていましたが昨年7月、旧パイオニア駐車場跡地に決定し、パイオニア（株）との契約が交わされました。面積約3万7000m²、購入金額6億7000万円。現在、PFI手法（民間資金活用）による整備手法を検討していますが、完成時期は当初の平成28年度より先になりそうです。



▲迎賓施設・瑞龍閣 東司（とうす）水洗トイレ▶

可睡斎・瑞龍閣、東司が登録有形文化財に

可睡斎にある建造物・瑞龍閣と東司（とうす）の2棟が、昨年7月、登録有形文化財の指定の答申を受けました。いずれも戦前に建てられた大型の木造建築物ですが、ここにきて改めて光が当てられたかたちです。



活人剣碑再建計画を発表

可睡斎には日清講和条約にまつわる歴史秘話、佐藤進と李鴻章の親交を記念する活人剣碑があります。しかし剣の部分は先の戦争で供出されたため石碑の部分しか残っておりません。今回、宮田亮平東京芸大大学長に依頼し、新しく再建するとともに、建立の意義を広く明らかにします。9月26日に立剣式を予定。



▲建立当時の活人剣碑